【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の４の７第１項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成26年７月11日
【四半期会計期間】	第21期第１四半期(自　平成26年３月１日　至　平成26年５月31日)
【会社名】	株式会社ブロッコリー
【英訳名】	BROCCOLI Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長　　森　田　知　治
【本店の所在の場所】	東京都練馬区豊玉北五丁目14番６号
【電話番号】	03-5946-2811
【事務連絡者氏名】	取締役執行役員管理本部長　　渡　邉　朋　浩
【最寄りの連絡場所】	東京都練馬区高野台二丁目14番１号
【電話番号】	03-5372-6322
【事務連絡者氏名】	取締役執行役員管理本部長　　渡　邉　朋　浩
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町２番１号)

第一部 【企業情報】

第１ 【企業の概況】

１ 【主要な経営指標等の推移】

回次		第20期 第１四半期 累計期間	第21期 第１四半期 累計期間	第20期
会計期間		自　平成25年 ３月１日 至　平成25年 ５月31日	自　平成26年 ３月１日 至　平成26年 ５月31日	自　平成25年 ３月１日 至　平成26年 ２月28日
売上高	(千円)	1,189,013	1,531,466	6,786,095
経常利益	(千円)	264,554	459,577	2,150,642
四半期（当期）純利益	(千円)	239,732	283,465	1,908,838
持分法を適用した場合の投資利益	(千円)	―	―	―
資本金	(千円)	331,775	331,775	331,775
発行済株式総数	(株)	32,738,211	32,738,211	32,738,211
純資産額	(千円)	1,840,800	3,367,258	3,509,549
総資産額	(千円)	2,769,143	4,484,174	4,490,057
１株当たり四半期（当期）純利益	(円)	7.33	8.66	58.31
潜在株式調整後１株当たり四半期(当期)純利益	(円)	7.32	―	58.31
１株当たり配当額	(円)	―	―	13.00
自己資本比率	(%)	66.5	75.1	78.2

(注) １　売上高には、消費税等は含まれておりません。
２　持分法を適用した場合の投資利益については、関連会社が存在しないため記載しておりません。
３　第21期第１四半期累計期間の潜在株式調整後１株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第１四半期累計期間において、当社において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

なお、当社は子会社及び関連会社を一切有しておりません。

第２ 【事業の状況】

１ 【事業等のリスク】

当第１四半期累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」について重要な変更はありません。

２ 【経営上の重要な契約等】

当第１四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

３ 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

①業績の状況

当第１四半期累計期間におけるわが国の経済は、堅調な個人消費や円安、輸出に加え、雇用・所得環境の改善や株高の他、平成32年（2020年）の東京五輪開催決定もあり、景気は、改善傾向となりました。

当社が属するエンターテイメント業界におきましては、スマートフォンゲーム市場の拡大傾向が顕著であり、特にゲームアプリの市場規模は急伸しております。加えて、タブレット端末の普及や、無料通話・無料メールアプリも存在感をますます高めるなど、市場の多極化が進み、業界環境は急速に変化しております。

当社は、かかる経営環境下において、更なる事業及び収益の拡大を図るために、①『うたの☆プリンスさまっ♪』の“ムーブメント化”への前進！　②リアルグッズのNo.1メーカーへ！　③『Z/X（ゼクス）』2nd Stage Yearへの挑戦！　④プロモーション＆セールスの強化　⑤BCPを中心とした社員の安全と幸福の追求　の５点を今期の課題とし、「自社内にて開発するコンテンツのヒット創出及びハイリターンの追求」、「リアルグッズ製作での確実な収益確保」の２つを両立する事業戦略（ツインエンジン化）をより強固かつ安定的なものとするべく推進してまいりました。

このような状況下、当第１四半期累計期間の売上高は1,531百万円（前年同期比128.8%）、売上総利益率は48.8%（前年同期と同水準）、売上総利益は746百万円（前年同期比128.7%）となりました。

この主な要因としましては、以下のとおりとなります。

ゲーム部門につきましては、『うたの☆プリンスさまっ♪All Star』『うたの☆プリンスさまっ♪Repeat』をはじめとした『うたの☆プリンスさまっ♪』関連作品のバックオーダーが好調であり、また、平成26年４月より、当社ゲームソフト『神々の悪戯』を原作としたTVアニメ『神々の悪戯』が放映を開始したことに伴い、同ゲームソフトのバックオーダーも好調に推移し、期初計画を大幅に上回ることができました。CD部門につきましては、４月からリリースを開始いたしました『うたの☆プリンスさまっ♪アイドルソング』新シリーズの２作が好調な売上で推移いたしました。カードゲーム部門につきましては、平成26年４月に第８弾『神祖の胎動』を発売いたしましたトレーディングカードゲーム『Z/X -Zillions of enemy X-（ゼクス ジリオンズ オブ エネミー エックス）：略称Z/X（ゼクス）』シリーズの売上が順調に推移いたしました。グッズ部門につきましては、当社女性向けコンテンツ『うたの☆プリンスさまっ♪』関連グッズをはじめ、他社男性向けコンテンツの関連グッズも好調に推移し、期初計画を上回ることができました。

販売費及び一般管理費につきましては、販売手数料の減少等により、286百万円（前年同期比91.0%）となりました。

この結果、営業利益は460百万円（前年同期比173.6%）、経常利益は459百万円（前年同期比173.7%）、四半期純利益は283百万円（前年同期比118.2%）となりました。

②財政状態の分析

（流動資産）

当第１四半期会計期間末における流動資産の残高は4,129百万円で、前事業年度末に比べ59百万円減少しております。現金及び預金の減少186百万円、商品及び製品の増加54百万円、仕掛品の増加49百万円が主な要因であります。

（固定資産）

当第１四半期会計期間末における固定資産の残高は354百万円で、前事業年度末に比べ53百万円増加しております。出資金の増加46百万円が主な要因であります。

（流動負債）

当第１四半期会計期間末における流動負債の残高は1,077百万円で、前事業年度末に比べ140百万円増加しております。買掛金の増加89百万円及び未払金の増加68百万円が主な要因であります。

（固定負債）

当第１四半期会計期間末における固定負債の残高は39百万円で、前事業年度末に比べ４百万円減少しております。リース債務の減少４百万円が主な要因であります。

（純資産）

当第１四半期会計期間末における純資産の残高は3,367百万円で、前事業年度末に比べ142百万円減少しております。これは、四半期純利益283百万円が計上された一方で、剰余金の配当425百万円が行われたことが主な要因であります。

③事業上及び財務上対処すべき課題

当第１四半期累計期間において、当社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

④研究開発活動

当第１四半期累計期間における研究開発費の総額は５百万円で全て一般管理費に含まれております。

第３ 【提出会社の状況】

１ 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

① 【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	100,000,000
計	100,000,000

② 【発行済株式】

種類	第１四半期会計期間末現在発行数(株)(平成26年５月31日)	提出日現在発行数(株)(平成26年７月11日)	上場金融商品取引所名又は登録認可金融商品取引業協会名	内容
普通株式	32,738,211	32,738,211	東京証券取引所ＪＡＳＤＡＱ（スタンダード）	単元株式数　1,000株
計	32,738,211	32,738,211	―	―

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総数増減数(株)	発行済株式総数残高(株)	資本金増減額(千円)	資本金残高(千円)	資本準備金増減額(千円)	資本準備金残高(千円)
平成26年５月31日	―	32,738,211	―	331,775	―	1,775

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第１四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第１四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成26年２月28日）に基づく株主名簿による記載をしております。

① 【発行済株式】

平成26年５月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	―	―	―
議決権制限株式(自己株式等)	―	―	―
議決権制限株式(その他)	―	―	―
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 1,000	―	―
完全議決権株式(その他)	普通株式 32,717,000	32,717	―
単元未満株式	普通株式 20,211	―	―
発行済株式総数	32,738,211	―	―
総株主の議決権	―	32,717	―

(注) 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社所有の自己株式323株が含まれております。

② 【自己株式等】

平成26年５月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数(株)	他人名義所有株式数(株)	所有株式数の合計(株)	発行済株式総数に対する所有株式数の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社ブロッコリー	東京都練馬区豊玉北五丁目14番６号	1,000	―	1,000	0.00
計	―	1,000	―	1,000	0.00

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第４ 【経理の状況】

１．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第63号)に基づいて作成しております。

２．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の２第１項の規定に基づき、第１四半期会計期間（平成26年３月１日から平成26年５月31日まで）及び第１四半期累計期間(平成26年３月１日から平成26年５月31日まで)に係る四半期財務諸表について、三優監査法人による四半期レビューを受けております。

３．四半期連結財務諸表について

当社は子会社がありませんので、四半期連結財務諸表を作成しておりません。

1 【四半期財務諸表】

(1) 【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成26年２月28日)	当第１四半期会計期間 (平成26年５月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,284,135	3,098,091
売掛金	677,453	680,126
商品及び製品	62,120	116,134
仕掛品	30,680	80,599
原材料及び貯蔵品	1,863	2,067
その他	133,131	152,917
流動資産合計	4,189,385	4,129,937
固定資産		
有形固定資産	32,811	32,106
無形固定資産	101,117	110,398
投資その他の資産		
その他	168,743	213,731
貸倒引当金	△2,000	△2,000
投資その他の資産合計	166,743	211,731
固定資産合計	300,672	354,236
資産合計	4,490,057	4,484,174
負債の部		
流動負債		
買掛金	226,505	315,697
未払法人税等	189,781	153,438
返品調整引当金	34,334	34,461
賞与引当金	25,973	29,420
役員賞与引当金	56,000	10,000
その他	404,018	534,364
流動負債合計	936,613	1,077,381
固定負債		
その他	43,895	39,535
固定負債合計	43,895	39,535
負債合計	980,508	1,116,916
純資産の部		
株主資本		
資本金	331,775	331,775
資本剰余金	37,127	37,127
利益剰余金	3,140,423	2,998,309
自己株式	△478	△478
株主資本合計	3,508,847	3,366,734
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	701	523
評価・換算差額等合計	701	523
純資産合計	3,509,549	3,367,258
負債純資産合計	4,490,057	4,484,174

(2) 【四半期損益計算書】

【第１四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第１四半期累計期間 (自 平成25年３月１日 至 平成25年５月31日)	当第１四半期累計期間 (自 平成26年３月１日 至 平成26年５月31日)
売上高	1,189,013	1,531,466
売上原価	608,757	784,523
売上総利益	580,255	746,943
販売費及び一般管理費	315,290	286,931
営業利益	264,965	460,011
営業外収益		
受取手数料	54	38
還付加算金	144	-
受取補償金	-	17
その他	0	-
営業外収益合計	198	56
営業外費用		
支払利息	551	490
その他	57	-
営業外費用合計	609	490
経常利益	264,554	459,577
特別損失		
固定資産除却損	2	0
特別損失合計	2	0
税引前四半期純利益	264,552	459,577
法人税等	24,819	176,111
四半期純利益	239,732	283,465

【注記事項】

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

当第１四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第１四半期累計期間に係る減価償却費(無形固定資産に係る償却費を含む。)は、次のとおりであります。

	前第１四半期累計期間 (自　平成25年３月１日 至　平成25年５月31日)	当第１四半期累計期間 (自　平成26年３月１日 至　平成26年５月31日)
減価償却費	6,519千円	7,296千円

(株主資本等関係)

前第１四半期累計期間(自　平成25年３月１日　至　平成25年５月31日)

１．配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額(千円)	１株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年５月24日定時株主総会	普通株式	196,353	6.0	平成25年２月28日	平成25年５月27日	利益剰余金

２．基準日が当第１四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第１四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

当第１四半期累計期間(自　平成26年３月１日　至　平成26年５月31日)

１．配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額(千円)	１株当たり配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成26年５月30日定時株主総会	普通株式	425,579	13.0	平成26年２月28日	平成26年５月30日	利益剰余金

２．基準日が当第１四半期累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第１四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

当社はエンターテイメント事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(１株当たり情報)

１株当たり四半期純利益及び算定上の基礎並びに潜在株式調整後１株当たり四半期純利益及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第１四半期累計期間 (自　平成25年３月１日 至　平成25年５月31日)	当第１四半期累計期間 (自　平成26年３月１日 至　平成26年５月31日)
(1) １株当たり四半期純利益	７円33銭	8円66銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益(千円)	239,732	283,465
普通株主に帰属しない金額(千円)	―	―
普通株式に係る四半期純利益(千円)	239,732	283,465
普通株式の期中平均株式数(株)	32,728,474	32,736,888
(2) 潜在株式調整後１株当たり四半期純利益	７円32銭	―
(算定上の基礎)		
四半期純利益調整額(千円)	―	―
普通株式増加数(株)	6,657	―
希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後１株当たり四半期純利益の算定に含めなかった潜在株式で、前事業年度末から重要な変動があったものの概要	―	―

(注) 当第１四半期累計期間の潜在株式調整後１株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成26年７月11日

株式会社　ブロッコリー
　取締役会　御中

三優監査法人

代表社員 業務執行社員	公認会計士	小林昌敏	㊞
業務執行社員	公認会計士	齋藤浩史	㊞

当監査法人は、金融商品取引法第193条の２第１項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社ブロッコリーの平成26年３月１日から平成27年２月28日までの第21期事業年度の第１四半期会計期間（平成26年３月１日から平成26年５月31日まで）及び第１四半期累計期間（平成26年３月１日から平成26年５月31日まで）に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社ブロッコリーの平成26年５月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第１四半期累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以　上

（注）１　上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
　　２　XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。